

釜石リージョナルコーディネーター（釜援隊）



～はざままで価値を生む～

“釜援隊”を表す 3つの言葉

復興を加速する

東日本大震災による被害を受けた釜石市において、
官と民、市内と市外など、立場や環境を超えた復興まちづくりの連携を促す。

まちづくりの黒衣（くろこ）になる

そこに住まう人びとが、「互いに助け合う暮らし」「自他共栄の生業」を
自分たちで創るための、アシストに徹する。

多様な「個」を「公」にいかす

自身のキャリアを社会課題の解決や公益創出のため活かし
個人と地域が共に成長する働き方を開拓する。

釜援隊のビジョン・ミッション
—まちづくりの“隙間”を埋め、「復興」を加速する—



中心市街地 (東部地区)



漁村集落 (唐丹町小白浜地区)

□ 人的被害

- 死亡者数 1,063人
(行方不明者数152人、関連死認定者数105人含む)
- 避難者数 市内避難 9,883人 (H23.3.17最大)
内陸避難 633人 (H23.5.9最大)

□ 家屋被害

- 住家数 16,182戸 のうち 4,704戸が被災 (29%)
※被災の内訳 全壊 2,957戸
大規模半壊 395戸
半壊 305戸
一部損壊 1,048戸

□ 産業関係

- 市内全事業所 2396事業所のうち
浸水範囲の事業所数 1,382事業所 (57.7%)
- 漁業関係 市内3漁協の漁船1,734隻のうち
1,692隻が被災 (97.6%)

1. 発足背景ーキャパシティ・オーバーの行政

市の予算額は約**6倍**（平成23年度予算:172億 ↔ 平成26年度予算:1,080億）

↔ 市職員数は約**1.2倍**（平成23年2月:423人 ↔ 平成26年5月:523人）

= 行政の人手・専門性不足 ⇒ **公助の限界**

<2013年当時、釜石市が直面した復興課題>



すまい

- 復興計画の策定
- 用地取得
- 施工業者の確保
- 工程・進捗管理の徹底



なりわい

- 商業者の事業再建
- 人手不足の解消
- 需給のミスマッチ解消



くらし

- 再建意向不明者への対応
- 地域コミュニティの再構築
- 見守り、心のケア、介護予防
- 仮設住宅の集約

参考) 復興交付金事業の概要

※資料出典 釜石市復興推進本部

□ 総配分事業費 約1,777.3億円

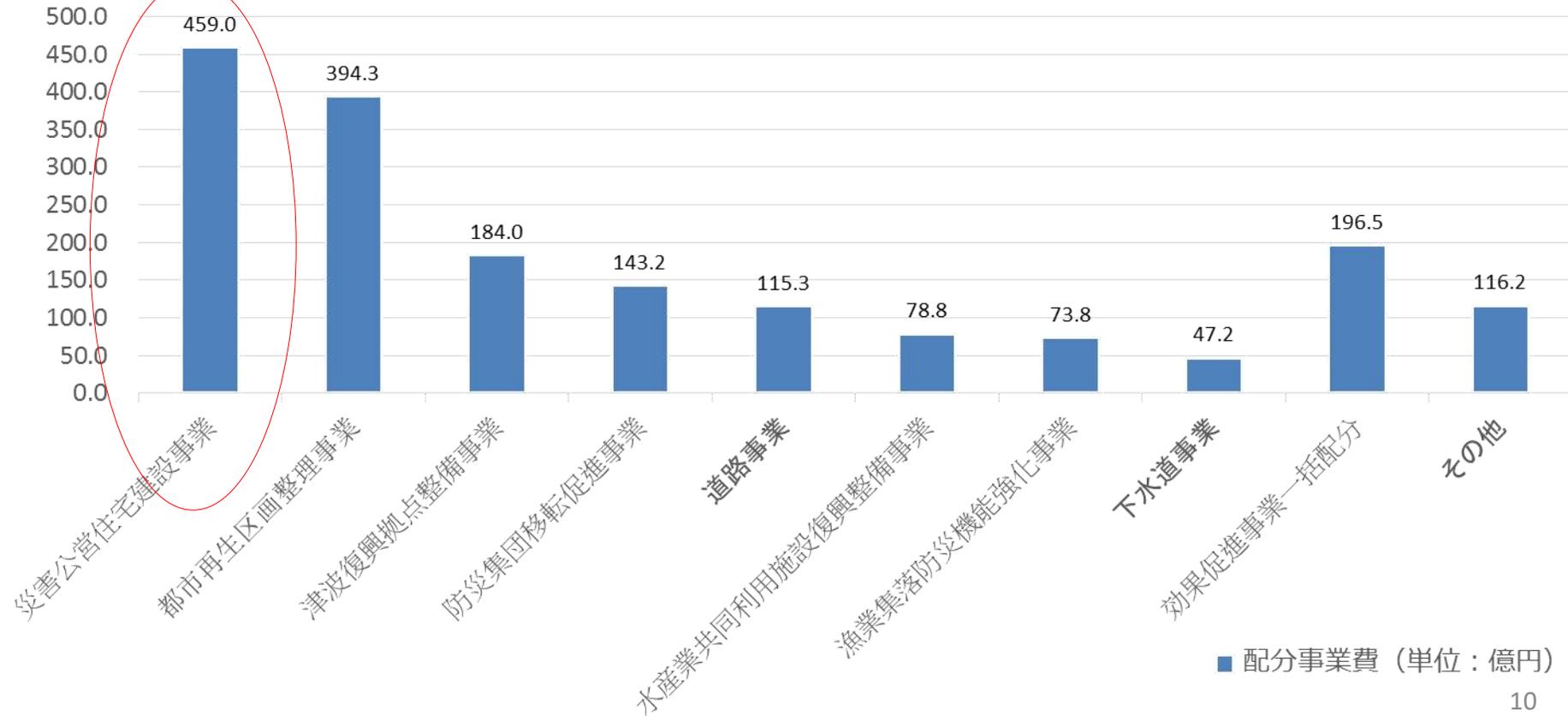
※1 第20回 (H30.2.28) 時点

※2 岩手県事業を含む

□ 主な復興事業費の配分済額

※1 効果促進事業も含む

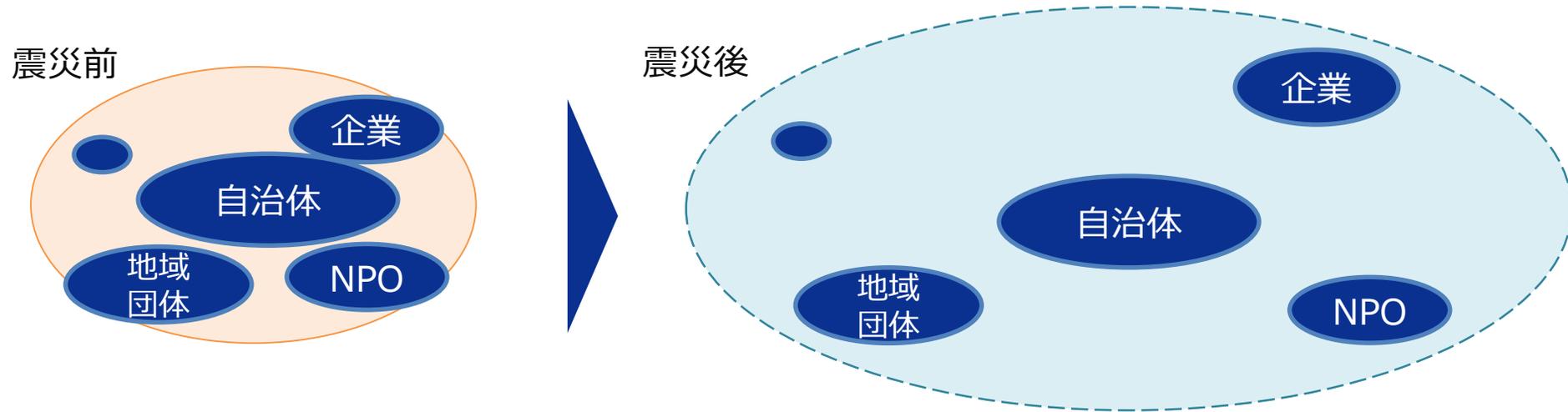
※2 岩手県事業を除く



課題	概要・背景
復興工事の遅延	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 住民合意の遅れ（全21地区合意まで2年半） <input type="checkbox"/> 難航地権者への対応（交渉に時間、設計変更など） <input type="checkbox"/> 再建意向の変化に伴う設計変更等 <input type="checkbox"/> 着工後に生じた事象への対応（軟弱地盤対策、他工事との調整等）
人手不足	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 膨大な事務量に対し、市職員が大幅に不足 <input type="checkbox"/> 雇用のミスマッチ（土木・建築の専門職やドライバー、水産加工業、サービス業で不足が深刻な一方、事務職に求職が偏重）
被災者の住宅再建	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 過去2回にわたる住宅再建意向不明者・未定者への対応 <input type="checkbox"/> H26年秋時点で、意向不明者が被災4,000世帯中約1,000世帯 <input type="checkbox"/> 電話、訪問等による地道な意向把握と再建に係る情報提供により、現時点で未定は0世帯 <input type="checkbox"/> 今後は、被災者の再建意向に沿えるよう、対応が必要
事業者の事業再建	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 後継者不在、販路喪失、資金不足等による再建困難 <input type="checkbox"/> 再建ではなく、仮設店舗での営業を継続する事業者への対応
コミュニティの再生	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 内陸の復興公営住宅における自治会づくり支援 <input type="checkbox"/> 公営住宅・仮設住宅コミュニティと既存町内会との接続・融合 <input type="checkbox"/> 退去者増、復興工事に伴う仮設住宅の廃止・集約化 <input type="checkbox"/> 孤立死や住民トラブル等への対応

2. 発足背景—まちづくりの“隙間”が増大

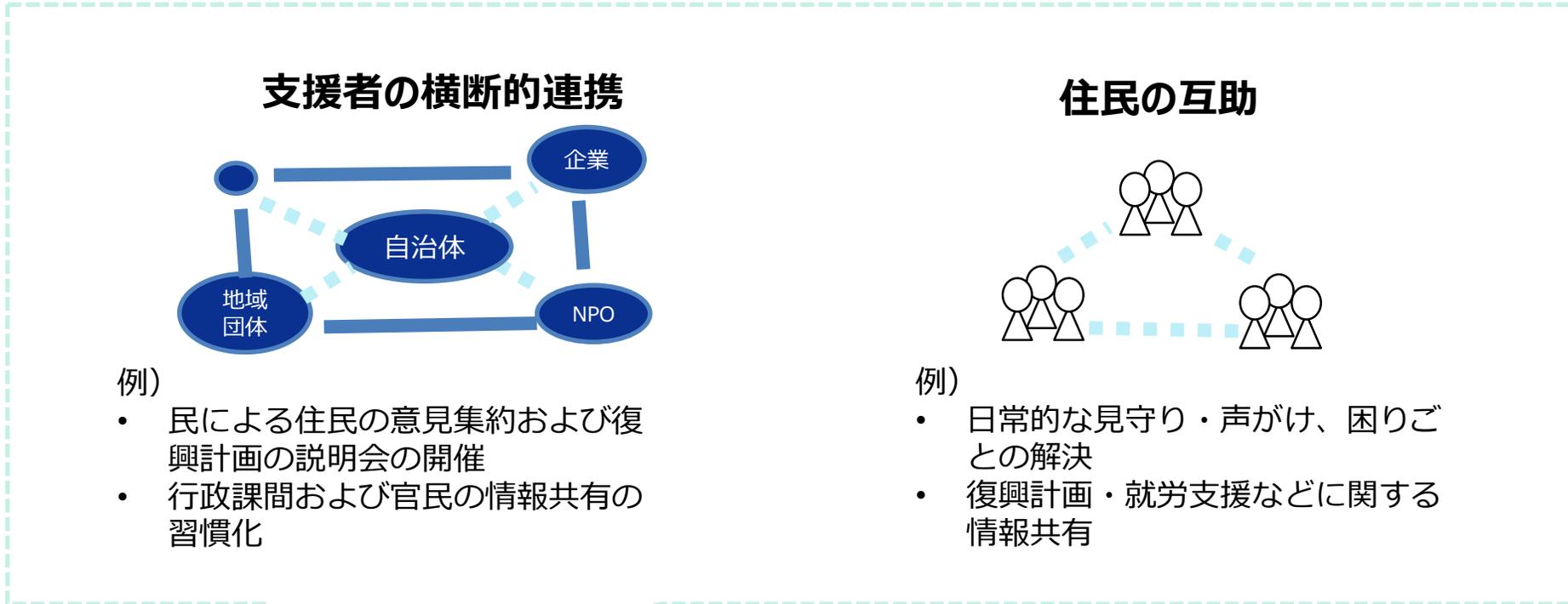
＜パブリックサービスの変化（イメージ）＞



まちづくり関係者間のミスコミュニケーションが、“復興を遅らせる”要因に

- 例) 避難所→仮設住宅→災害公営住宅へ移行するごとに、コミュニティの再形成が喫緊の課題となる
 ⇔ 行政各課・NPO・ボランティア間の情報共有が滞ると、見守り活動・自治会形成なども非効率に
 → 住民のフラストレーションは行政批判へつながり、「すまい・なりわい」に関する官民の合意形成にも影響

3. 行政を補完する民の力を培うコーディネーターに



(一社) RCF : 2012.6~唐丹地区にて「復興コーディネーター」として活動
 →釜石市に「リージョナルコーディネーター」の設置を提案



“はざま”で価値を生む。
 人と人。理想と現実。そして、復旧から復興・地方創生へ
 — 様々なものの“はざま”で私達は活動しています。

まちづくりの調整役 = 釜石リージョナルコーディネーター
 : 「釜援隊」プロジェクト始動

- 総務省復興支援員制度に基づき、釜石市と業務委嘱契約を結んだ個人事業主
- 2013年4月に第1期7名が活動開始 / 2018年5月現在 16名 (延べ29名採用)
- 約200名の応募を受け、外部人材を登用した復興/地方創生モデルとして注目を受ける

公式ホームページはこちらから : <http://kamaentai.org/>

参考) 釜石市の復興事業の組織体制－2018年5月時点

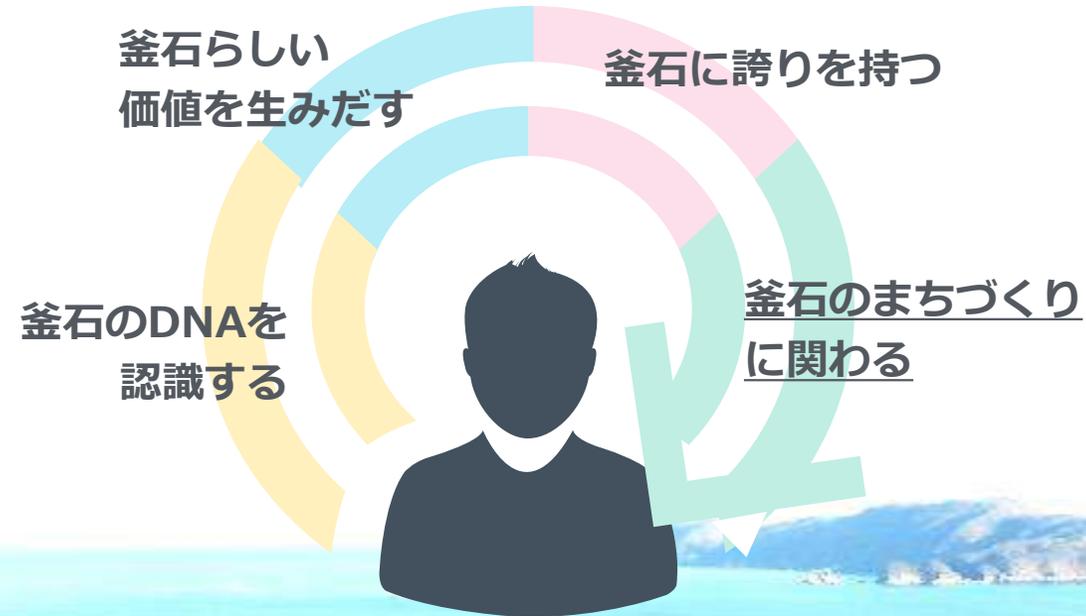
※資料出典 釜石市復興推進本部



	組織体系	役割・ミッション	
復興推進本部	事務局 (復興の司令塔機能)	<input type="checkbox"/> 復興推進本部及び復興事業に関わる部署の統括 <input type="checkbox"/> 市と連携し、住民・自治体・企業・NPOなどの調整	復興交付金の庁内調整 まちづくり協議会及び同盟会運営 復興計画に係る住民の合意形成支援など、地域のコーディネーター的役割
	釜援隊 ※復興支援員		
	都市整備推進室	<input type="checkbox"/> 被災した21地区の宅地整備	区画整理事業・防災集団移転事業(高台移転)などの住宅基盤整備
	生活支援室	<input type="checkbox"/> 被災者や仮設住宅入居者の対応	仮設住宅の被災者対応 意向不明者への接触・意向確認
他部署	都市計画課	<input type="checkbox"/> 復興公営住宅整備	コミュニティづくりに配慮した復興公営住宅の建設
	商業観光課	<input type="checkbox"/> 被災した商業者の再建	フロントプロジェクト1(イオン前街区) フロントプロジェクト3(魚河岸地区)
	水産課	<input type="checkbox"/> 防潮堤整備	市管理漁港における防潮堤の災害復旧による整備
	建設課	<input type="checkbox"/> 道路整備	孤立集落解消の道路等の整備
	地域包括ケア推進本部	<input type="checkbox"/> 地域住民の包括的・一体的なケアシステムの構築	復興公営住宅コミュニティ形成 見守り活動

4. “持続的なまち”をつくる、人をつくる コーディネーターに【VISION】

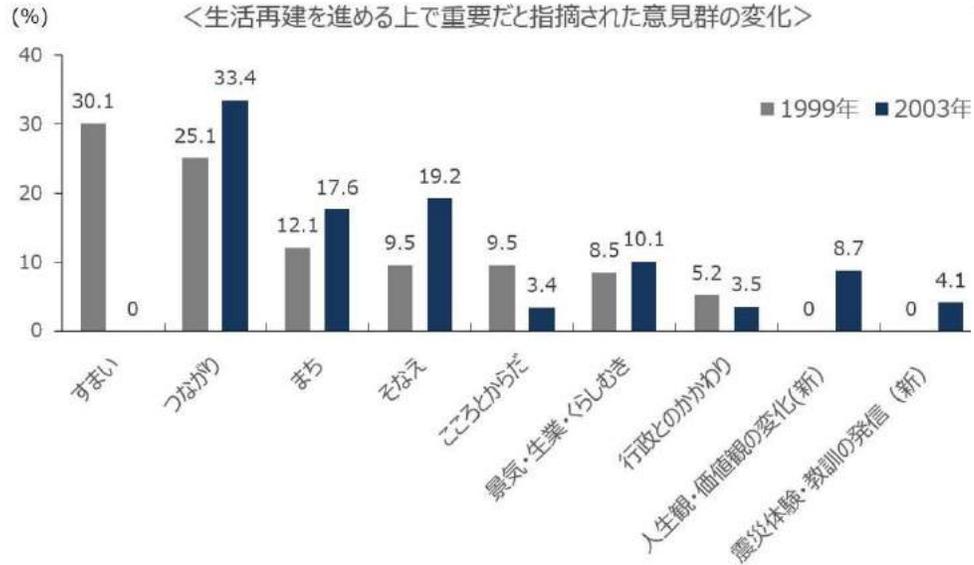
＜釜援隊が目指す市民像＞



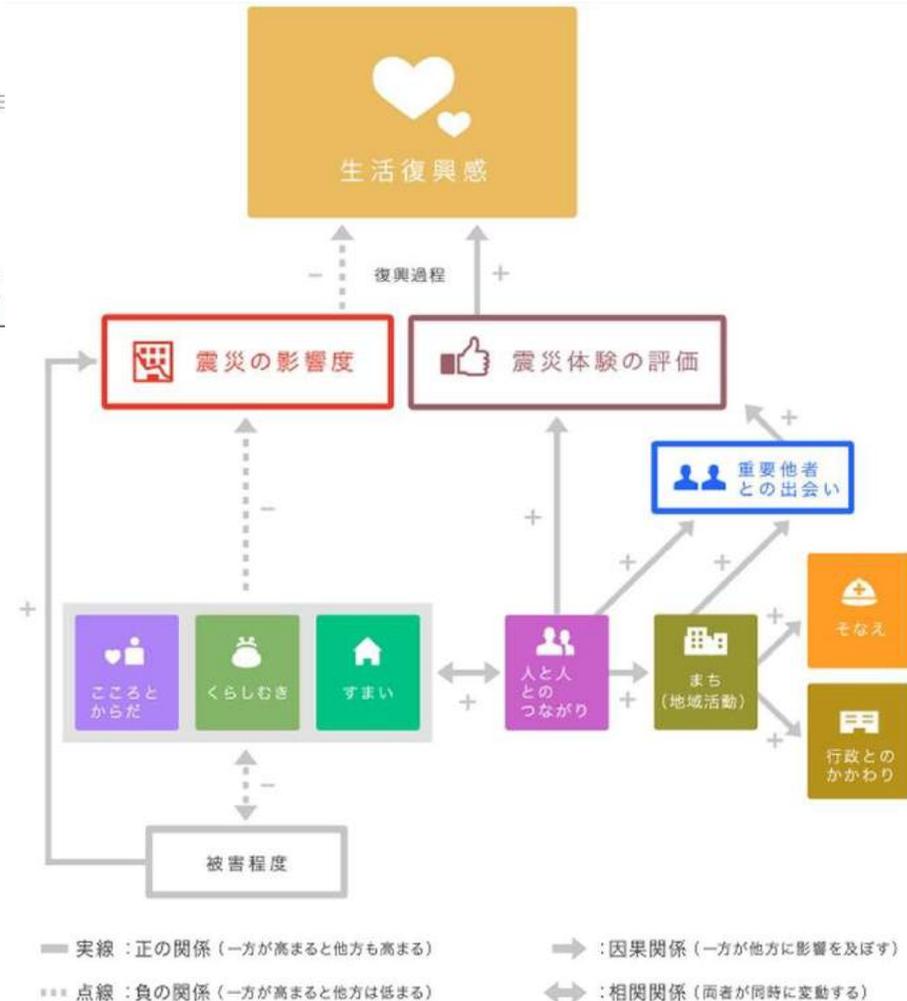
活動の“狭間”を埋め、つながりを増やし、住民の「復興」を加速させた先に
釜援隊が見据えるのは、世界に誇る「持続的なまちづくり」

行動する市民を増やすことが4つ目の復興課題 ～阪神・淡路大震災(1995年)からの学び～

“復興した”と感じられるために必要な要素の中で
もっとも重要なのは「つながり」



「重要他者との出会い」が
「震災体験の評価」を未来志向にする



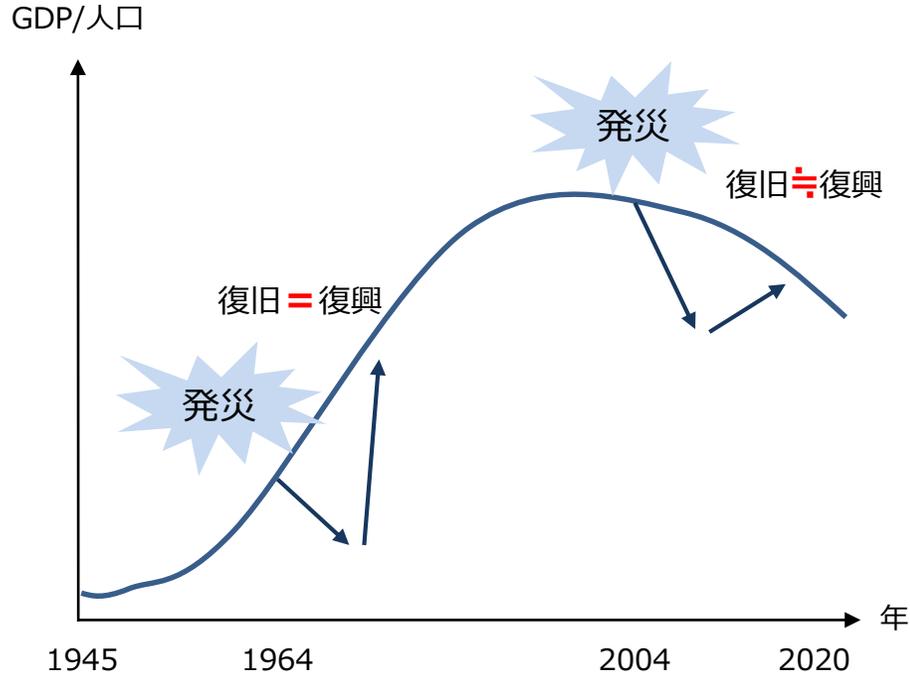
出所：「阪神・淡路大震災からの生活復興2005－生活復興調査結果
報告書－」「復興の教科書（<http://fukko.org/>）」より作成

行動する市民を増やすことが4つ目の復興課題 ～中越地震(2004年)からの学び～

経済が右肩上がりの時代と右肩下がり時代では、「復興」の意味が異なる

復興活動に関わってきた者ほど、ハード復旧後に「復興」を実感する

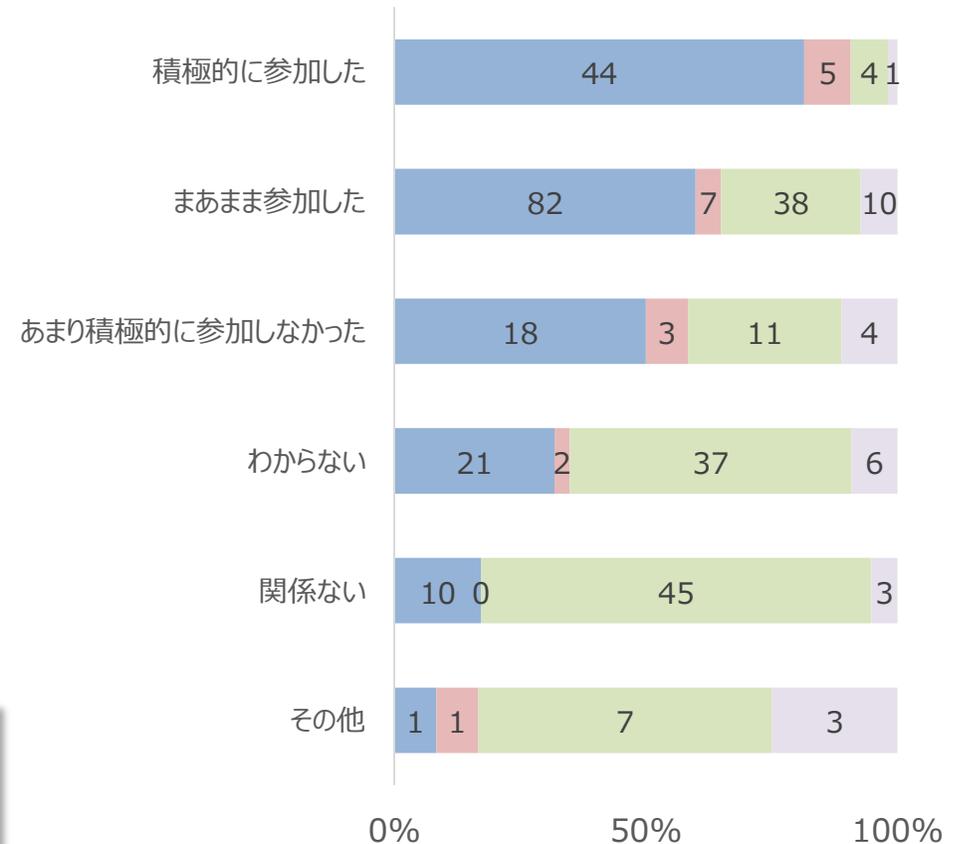
<イメージ図>



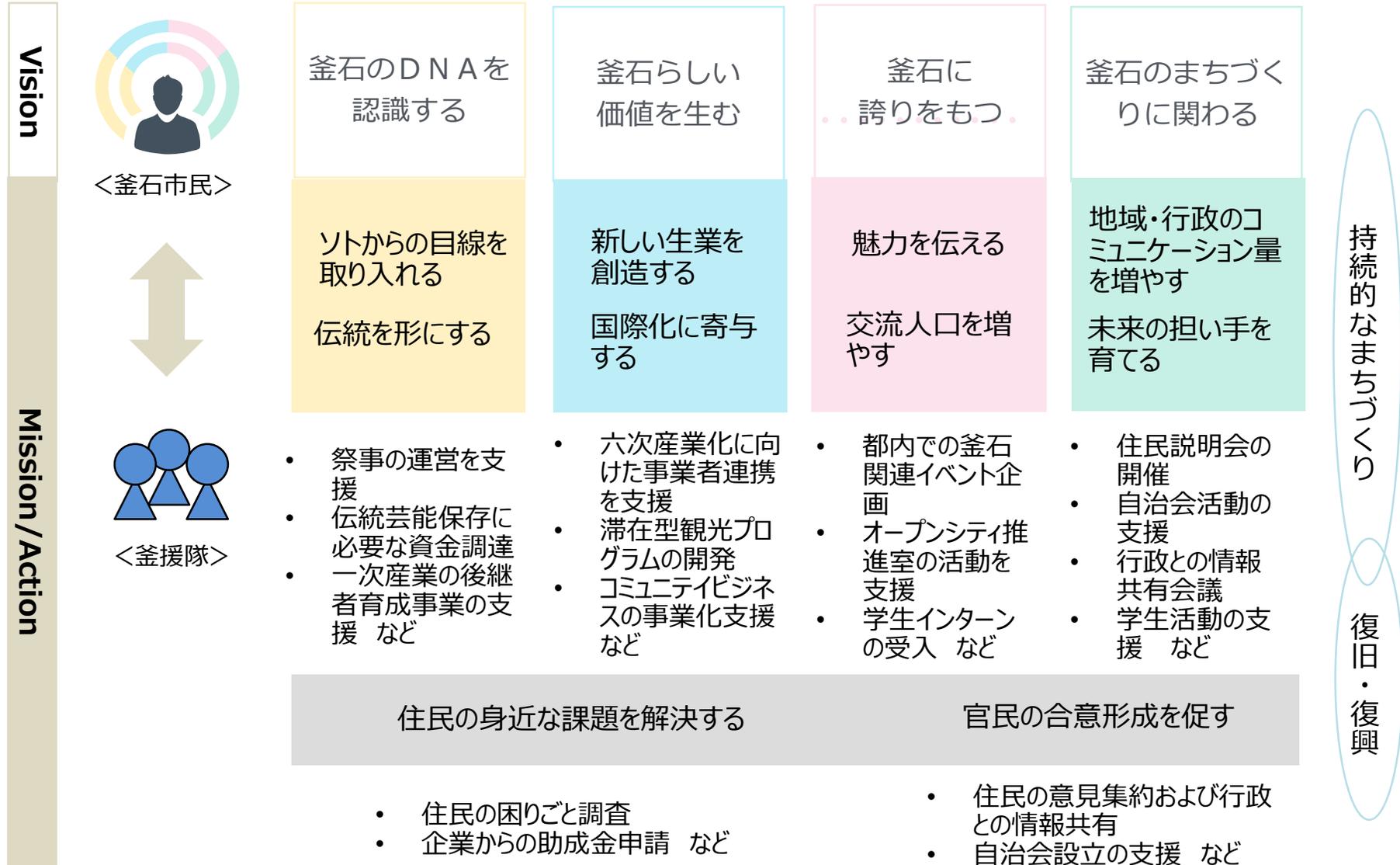
中越地震は“右肩下がり時代の復興”を、
日本ではじめて定義した震災

<アンケート調査2012年8月、復興プロセス研究会>

■ 復興したと感じる ■ 復興したと感じない ■ 関係ない ■ 非回答



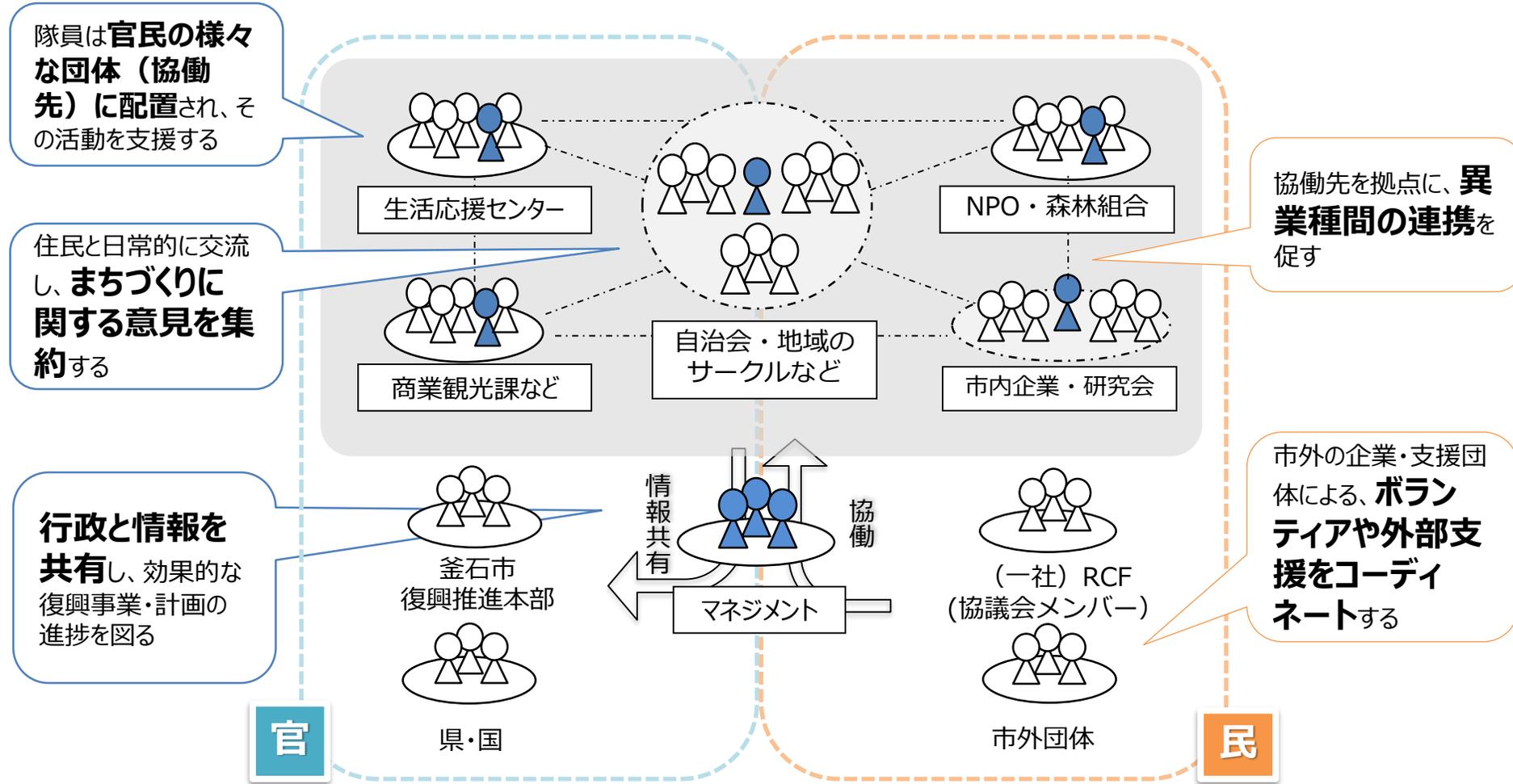
4. 地域資源で“化学反応”をおこし、住民の選択肢を増やす 【MISSION】



釜援隊の活動内容

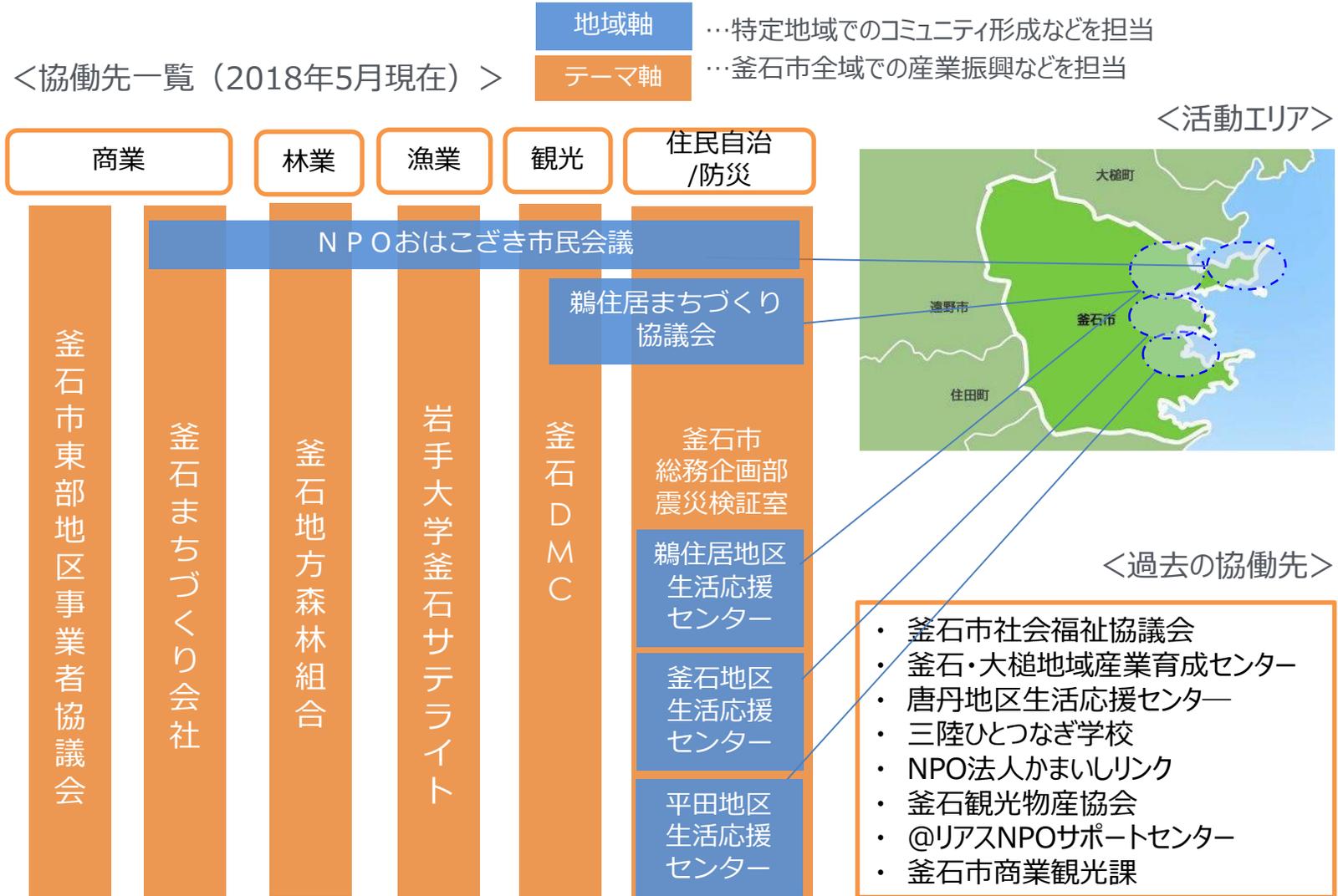
—まちづくりの黒衣（くろこ）として、そこに住まう人の、活動をアシストする—

1. 人・団体をつなげ、地域一体・住民主体のまちづくりへ



<釜援隊活動関係図>  ...釜援隊員

2. まちづくり活動者と協働し、異業種間の連携の可能性を広げる



隊員は**官民の様々な団体（協働先）に配置**され、その活動を支援する

<観光地域づくりの推進>

<観光振興ビジョン策定・実施のサポート>



第三章 基本的な考え方ー 釜石オープン・フィールド・ミュージアム構想

第一節 釜石オープン・フィールド・ミュージアムの目指す姿

第一項 釜石オープン・フィールド・ミュージアム構想の考え方

釜石市では「観光を通じた震災復興の実現」のために、釜石市民と共に地域を見つめ直す必要があります。自然景観、寺社仏閣、産業遺産、さらには、釜石市特有の環境・条件の中で、自然と共に暮らしてきた人の生き様・歴史を発掘します。それを釜石市民の間で共有し、釜石市内外に釜石市の姿を示していきます。釜石市全体を生きた屋根のない博物館と見立てて、釜石市で生活してきた市民一人ひとりがガイドとして釜石市の魅力を語り活躍する姿を目指します。この釜石オープン・フィールド・ミュージアム構想の実現により、釜石駅付近を主たるシンボリックな玄関口として釜石市内の全域・隅々までの観光回遊性を向上します。

釜石市が目指す釜石オープン・フィールド・ミュージアムは
 東北で唯一の世界遺産を伴う市内全域型フィールド・ミュージアム
 ～釜石市全体が生きた博物館～

第二項 オープン・フィールド・ミュージアムの定義

市外の企業・支援団体による、**ボランティアや外部支援をコーディネート**する
 協働先を拠点に、**異業種間の連携**を促す

〈国際金融機関の支援を受けた林業スクール〉

〈市内事業者連携による海鮮中華まんじゅう「海まん」の開発支援〉



住民と日常的に交流し、まちづくりに関する意見を集約する

<地域の事情、住民の困りごとを聞く>



<市復興推進本部との情報共有>



行政と情報を共有し、効果的な復興事業・計画の進捗を図る

＜復興公営住宅の自治会運営に伴走＞



＜行政課間・民間団体との連絡会議開催＞



•活動例 地域軸

事業名	担当	協働先×協力者	分野	詳細
復興まちづくりに関する合意形成	前川	鵜住居地区復興まちづくり協議会 × 総合政策課	官民の合意形成	<ul style="list-style-type: none"> 地域の合意形成促進を目指したまちづくり協議会の運営および拠点施設の管理 「鵜住居復興新聞」の発行による情報発信
無人販売実験 @復興公営住宅 (※)	山口	唐丹地区生活応援センター × 市外企業・研究機関	生活/福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> NTTドコモや岩手県立大学と連携し、交通の便が悪い地区の買い物弱者に対し、生活用品を気軽に購入できるシステムの構築、実証実験の支援
「釜石桜まつり」に向けた郷土芸能保存活動の活性化 (※)	山口	唐丹地区生活応援センター × 市内教育機関	郷土文化を通じたコミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> 三鉄開通記念に合わせた郷土芸能祭の実施 唐丹中学校での大石虎舞の継承 など
住民主体の自治会活動を推進/交流会の企画・運営@復興公営住宅	東 (※) 遠藤 二宮	東部・平田地区生活応援センター × 市内団体・住民	地域の見守り体制構築	<ul style="list-style-type: none"> 自治会形成のマニュアル化および市内展開 行政や支援団体に頼らない住民主体の交流イベント開催を推進
仮設支援連絡員事業の運営支援	常陸	@リアスNPOサポートセンター × 市内外支援団体	官民連携	<ul style="list-style-type: none"> 外部支援者による談話室イベントが減少傾向にある中での連絡員によるサロン活動の運営支援 仮設支援連絡員を対象にした研修の実施

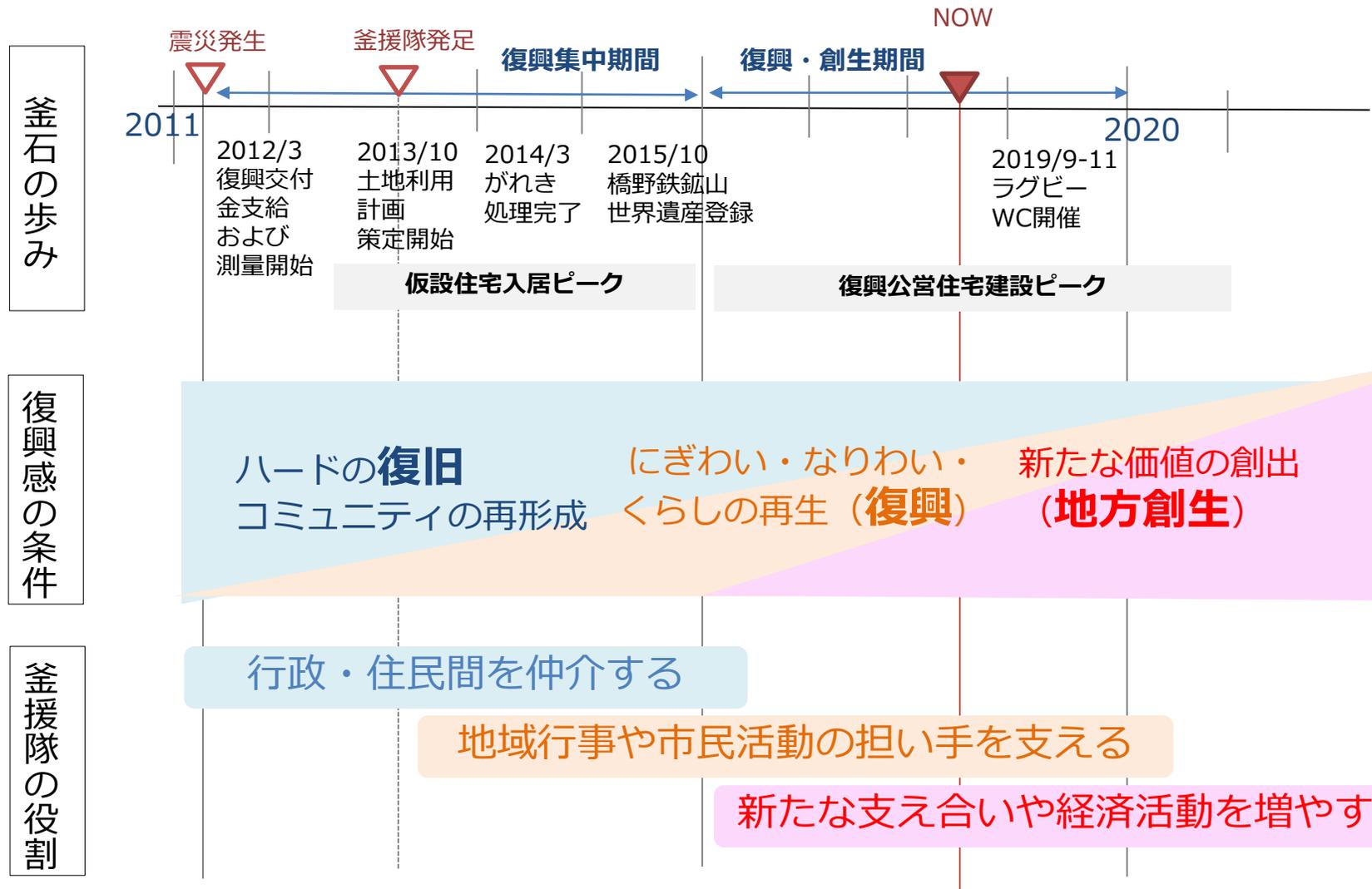
・活動例

テーマ軸

事業名	担当	協働先×協力者	分野	詳細
「Oh!マチ Music Festa」の開催	二宮 花坂	釜石東部 コミュニティ振興グループ × 市内商業者	商店街活 性化	・音楽にぎわいイベントの実行委員会運営 支援による、商店街を越えた連携の促進
民泊事業の促進	久保	商業観光課 × 市内団体、住民	観光業	・震災後に途切れていた民泊事業の再開支 援。26年度に民泊実施の協力民家を5件開 拓
「漁業の担い手育成 協議会」の運営	齋藤 (孝)	岩手大学釜石サテライト × 県・市・漁協	水産業	・漁業の後継者育成に向けた産官学連携プ ラットフォーム（漁業の担い手育成協議 会）運営及び関係者の調整/関連する企画 の提案
うみやまバーガー 開発（※）	下川	釜石うみやま連携 交流推進協議会 × 漁協女性部	水産加工 業	・市内箱崎半島の漁協女性部が行う釜石産 の山海の産物を使用したバーガー開発の活 動支援。今後は観光との接続も見据える
釜石食ブランド化の 推進	若林	釜石食ブランド協議会 × (株)かまいしDMC	観光業	・釜石のお土産品開発に向けた協議会活動 の支援 ・六次化担当隊員間の連携による地域内資 源の洗い出し
森林を活用した 「コミもり」事業の 立ち上げ（※）	黍原 齋藤 (学)	三陸ひとつなぎ 自然学校 × 市外NPO	観光業	・森林を活用した体験事業の立ち上げ支援 ・活動フィールドの拡大支援により、地域 への貢献度向上や信頼関係構築に寄与

※担当隊員卒業

4. 復興から創生へ、変化に対応し続ける



4. 復興から創生へ、変化に対応し続ける

地域軸

住民同士のつながりを強化し、
見守り合える関係を構築する

協働例)

- 行政機関と協働で、仮設住宅・復興公営住宅の自治会設立や、住民によるその後の運営に伴走する。また、新規コミュニティでの交流を促す、地域行事の企画・運営を補助する
- 市内外の支援団体と協働で、仮設住宅・復興公営住宅内におけるサロン活動をコーディネートする



住民同士の互助・共助を、
持続的な仕組みとして地域に残す

協働例)

- 市・社協・地域団体と協働で、住民による地域包括ケアの事業化をサポートする（cf. 復興庁「新しい東北」先導モデル事業『釜石版“みんなの”プロジェクト』）
- 市・地域団体と協働で、復興公営住宅内の集会所を、子供の遊び場および異世代間交流の場として開放する（cf. 放課後子供教室「平田MOSICA」）

<全心連によるフラワーサロン>



<唐丹・平田地区合同ウォーキング>



<「地域世話焼き人」研修会>



<放課後子供教室「平田MOSICA」>



4. 復興から創生へ、変化に対応し続ける

テーマ軸

一次産業の発展・後継者増加に向け
テーマ型コミュニティを形成する

協働例)

- 地域団体による、漁村集落の交流人口増加と後継者育成を目指し、漁業体験の企画・運営を補佐する (cf. NPOおはごさき市民会議「漁業 (うみ) の学舎」)
- 森林組合による、英国金融機関の支援を受けての林業の担い手育成に向けた実習プログラムと公開セミナーの開催を補佐する (cf. 釜石地方森林組合「釜石・大槌パークレイズ林業スクール」)



六次産業化・滞在型観光など、
新たな生業の創出を促す

活動例)

- 飲料メーカー・麒麟社の支援を受けた地元の事業者による、異業種連携・未利用資源の活用による新商品開発を支援 (cf. 釜石六次化研究会「海鮮中華まんじゅう『釜石・海まん』」)
- 地域団体や観光交流課を対象に、滞在型観光を軸とした観光ビジョンおよびプラットフォーム (DMO) 設置に向けた、会議やセミナーを開催。また、地域団体と提携した観光プログラムを提案。 (Cf. 2018年 (株) かまいしDMC発足)

<箱崎半島での漁業体験>



<林業スクールセミナー>



<『海まん』発表会>



<滞在型観光(民泊体験)>



5. 「釜石市オープンシティ戦略」を推進

<オープンシティ推進室HP>

釜石 オープンシティ釜石

- 釜援隊の経験を横展開し、釜石市が目指すのは、市民一人ひとりが役割を持ち、変化に対してもっとも開かれたまちの実現
- 多様な人材が還流し、
地域の課題と可能性が自分事化され、
新たな事業機会や市民活動が生まれることで希望が連鎖する**
… 一連のプロセスが「オープンシティ戦略」の柱

オープンシティ釜石

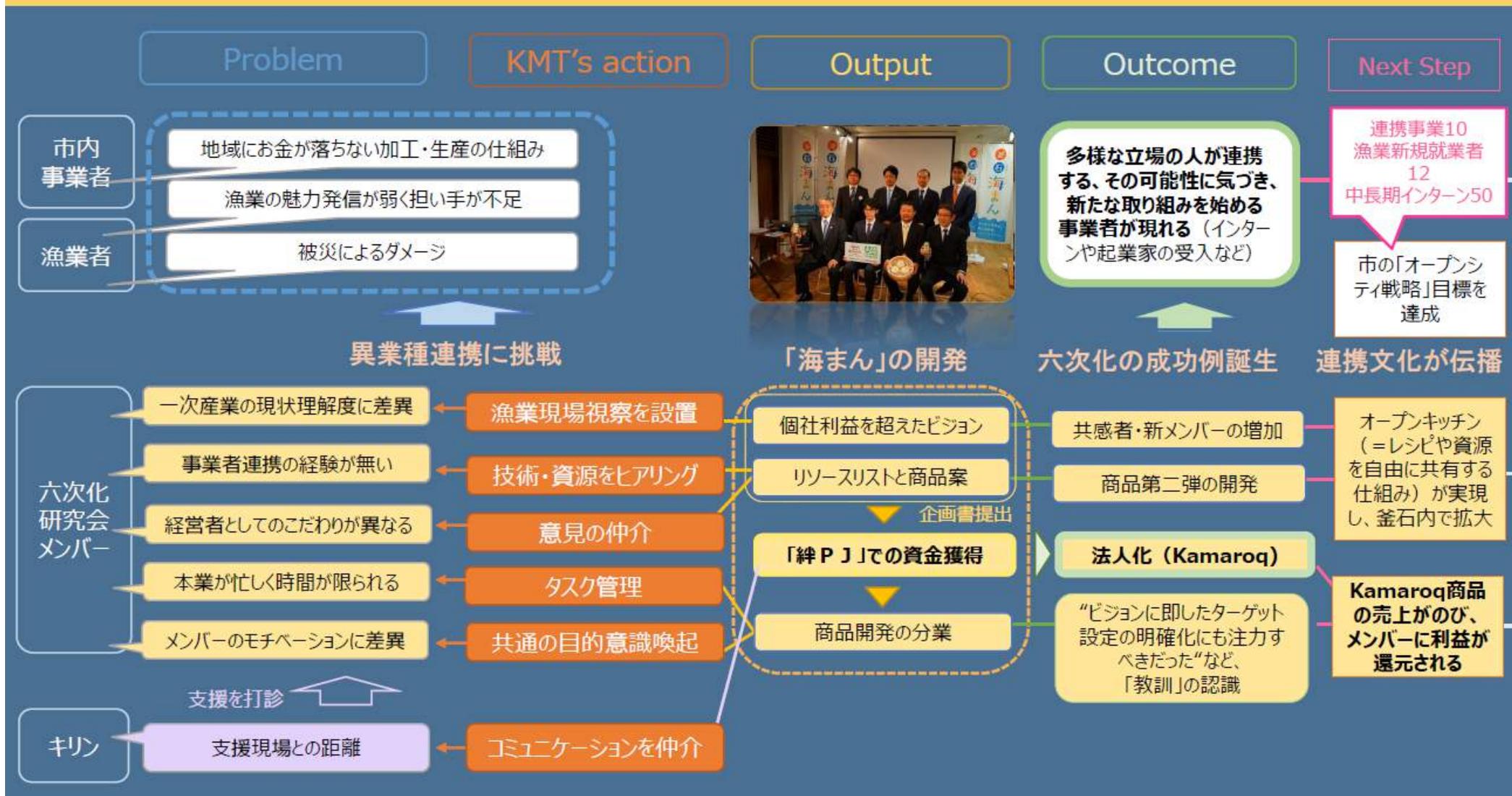
Meetup Kamaishi
釜石のお宝 & 鉄人発掘博覧会

釜石ローカルベンチャーコミュニティ
地域での起業





水産業六次化/異業種連携支援編（2013.4～2015.10）



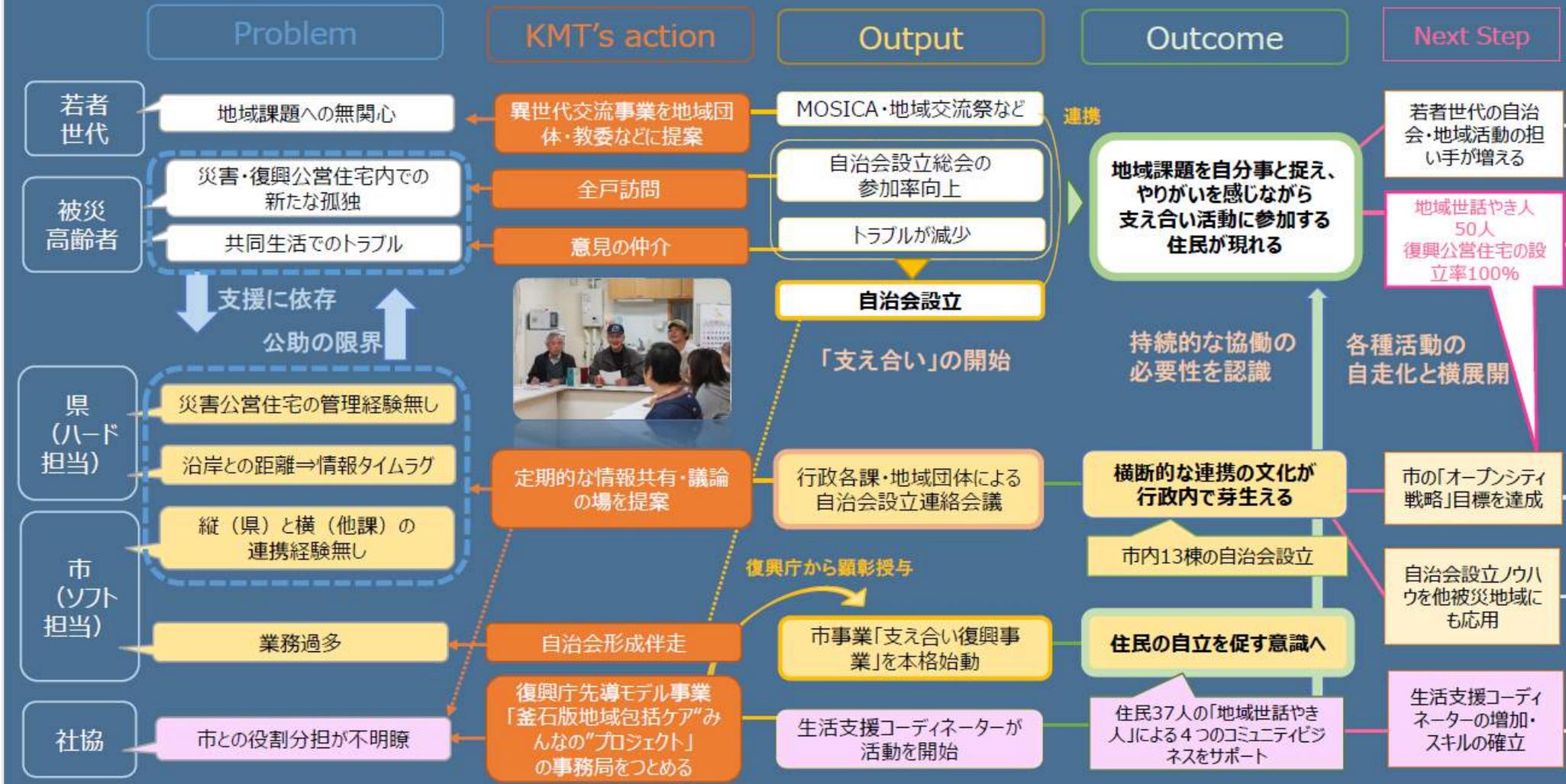
VISION

水産業を未来の代まで残すため様々な業種が連携し、共存共栄の経済を発展させている

災害・復興公営住宅自治会形成編（2014.2～2017.7）

VISION

あらゆる世代・立場の市民が互いを支える役割を持ち
生き甲斐を持って自分らしく生活できる地域へ



次世代のフロンティアとなる釜援隊の働き方
—多様な「個」を「公」にいかし、地域と個人の可能性を広げる—

1. 多様な「個」をいかす制度設計

- 隊員間の協働プロジェクトや情報共有を促進
⇒ **チームで課題解決に取り組む** + 隊員のストレスケア

男女比

9 : 20



前職

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> •TV番組制作 •新聞社 •広告代理店 •自営業（人材派遣・交通系コンサルタント・釣り具メーカー） | <ul style="list-style-type: none"> •児童館 •商社/銀行 •百貨店 •福祉用具販売 •教育関連企業 •環境NPO |
|--|--|

隊員年齢層

22-64歳



出身地

■ 市内 ■ 県内（市外） ■ 県外



2. 地域の課題を掘りおこし、地域資源（人材、組織）にアプローチする

例1) 子供の居場所づくり・異世代間交流促進事業

地域軸

課題感の共有

- 被災地域では、公園には仮設住宅が建設されるなど、子どもたちが遊び場を失っている。
- また、災害公営住宅では高齢者の「新しい孤独」が発生している。自治会運営の担い手にも、若い人が少ない。



- ①子どもが安心・安全に遊べる居場所確保 ②若者が地域活動に参加するきっかけ ③高齢者の生きがいをもって生活できる環境 が必要と考察
- 「子どもが自由に遊べる居場所・異世代間交流の場」をつくるという目標を設定



解決に伴走

- 子育て支援を行う地域団体や教育委員会などに協力を要請し、災害公営住宅の集会所に「放課後子ども教室MOSICA」を常設。
- 異世代間交流を図るイベント開催を通して、世代を超えた見守りの目を育むとともに、保護者世代の地域活動への興味を引き出す。

<放課後子ども教室MOSICA>



<異世代交流を促進するハロウィンイベント>



2. 地域の課題を掘りおこし、地域資源（人材、組織）にアプローチする

例2) 漁業の後継者育成事業

テーマ軸

課題感の共有

- 漁業の担い手が減少し、釜石の基幹産業である水産業が衰退しているが、効果的な解決策が見つからない



- 背景には、①漁師・住民を含む当事者による、漁業の危機的状況への認識不足と、②漁業の魅力の発信力不足があると分析
- また、ヒアリングを通して、行政・漁協・漁師らが本音で意見を交わせる環境が不足している現実を関係者と共有



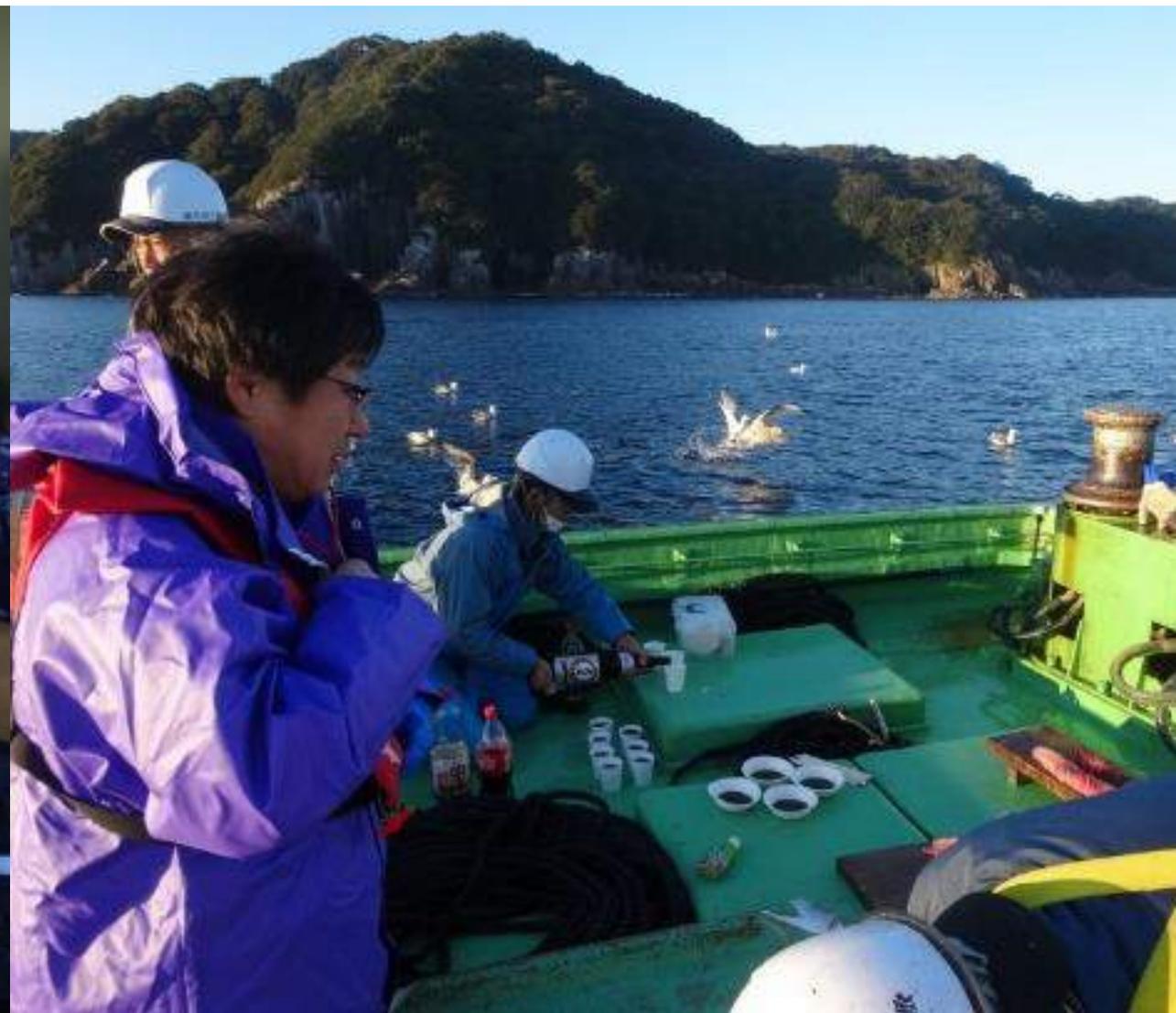
解決に伴走

- 【対住民】地域住民に向けた漁業体験、魚の食育イベントの開催を支援
- 【対漁師】若手漁師や漁協職員との「ざっくばらん懇談会」を企画
 - 【対支援者】「漁業担い手育成協議会」の活動を補佐し、産官学と現場（漁師・漁協）の連結を促す

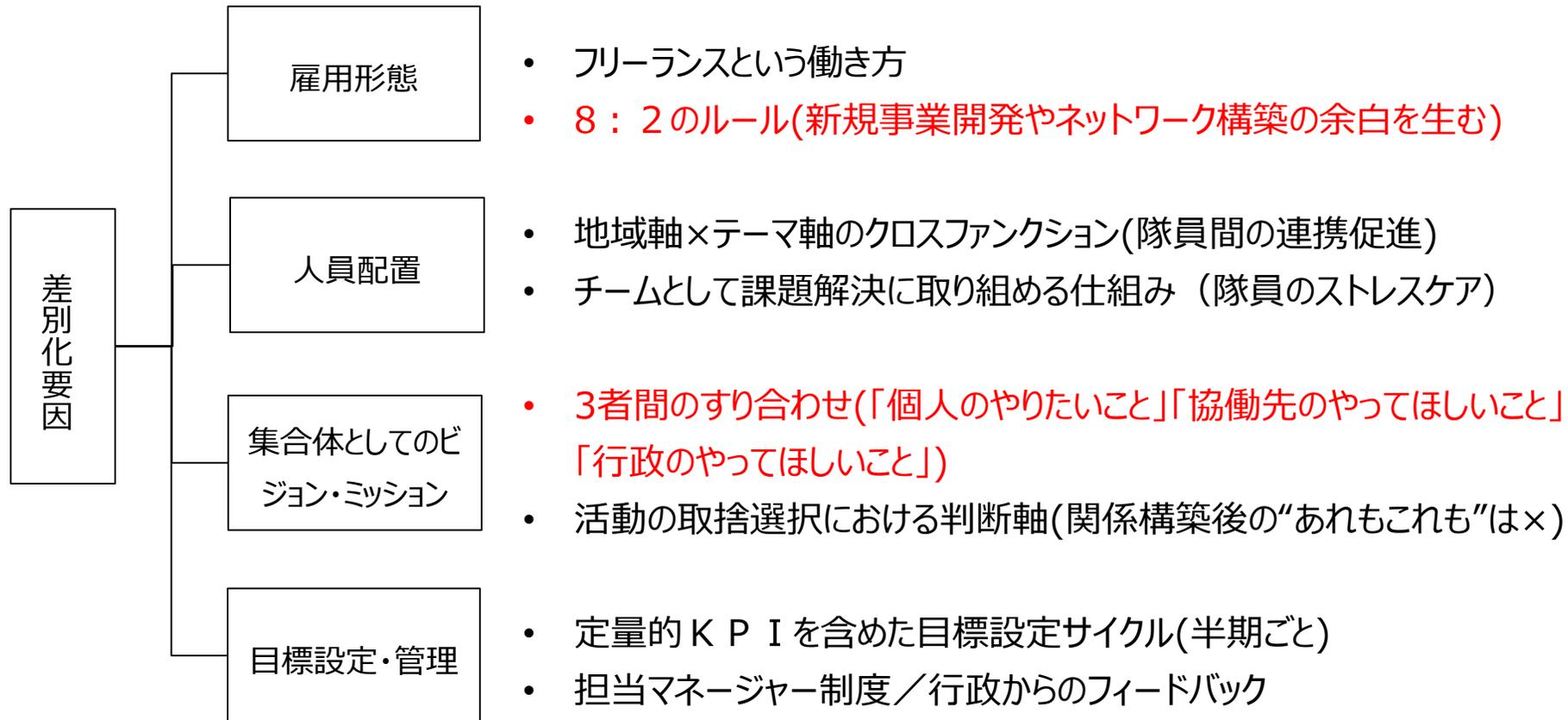
<他地域への視察をコーディネート>



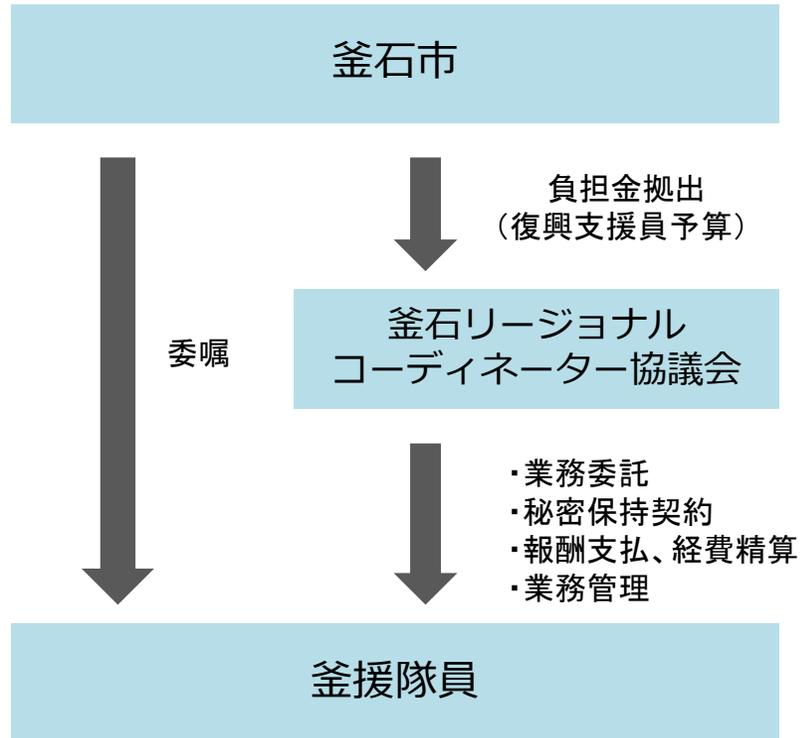
<漁師と日常的に交流>



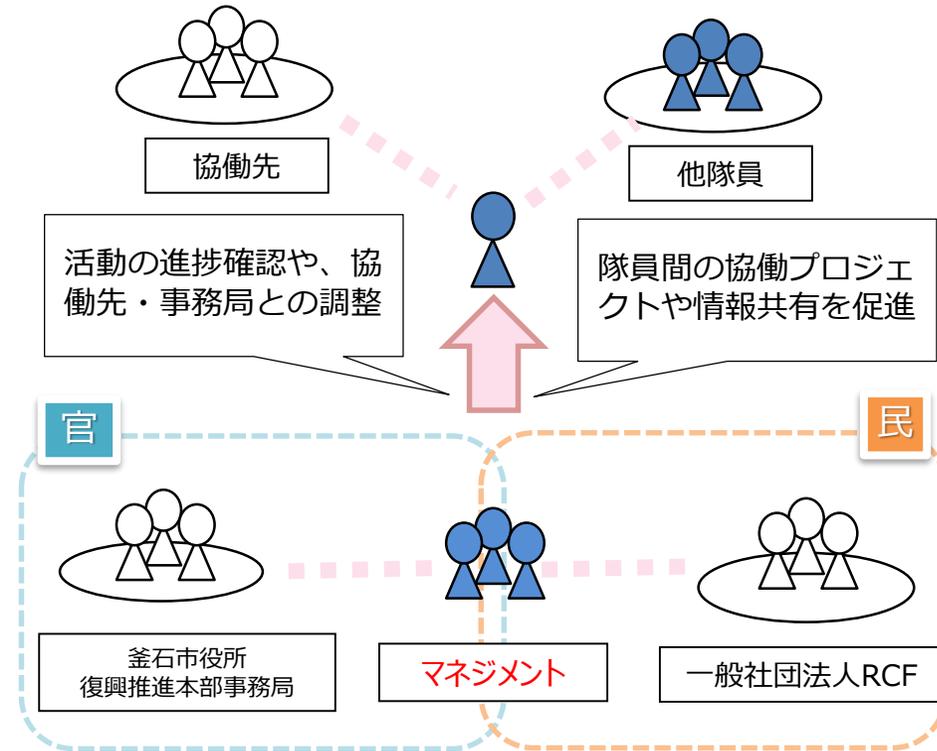
3.個人の可能性を広げる制度設計



3.個人の可能性を広げる制度設計



<釜石市役所との関係図>



<マネジメントによるサポート体制>

釜石から世界へ“持続可能なまちづくり”のモデルを



社会・経済・生態系の保全維持活動

1 NO POVERTY	2 ZERO HUNGER	3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING	4 QUALITY EDUCATION	5 GENDER EQUALITY	6 CLEAN WATER AND SANITATION
7 AFFORDABLE AND CLEAN ENERGY	8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH	9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE	10 REDUCED INEQUALITIES	11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES	12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
13 CLIMATE ACTION	14 LIFE BELOW WATER	15 LIFE ON LAND	16 PEACE, JUSTICE AND STRONG INSTITUTIONS	17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

+ “18 防災”
震災の教訓
を未来へ

“0. 個人の幸福感（復興感）”

▽まずはこちらをCheck！！

- ・ 2017年5月17日 IBCニュースエコー 復興への羅針盤
「地域の自立をアシスト」 黒衣に徹する「釜援隊」／釜石市

https://news.ibc.co.jp/fukko/article_20170517.html

- ・ 復興釜石新聞連載「釜援隊がゆく」

<http://kamaentai.org/topics/column-topics>

- ・ 2017年2月4日 DRIVE

地域発、働き方改革

—自分らしい働き方の実現を支える、釜石ローカルベンチャーコミュニティとは？

<http://drive.media/posts/14754>

▽他のメディア掲載情報はコチラ

<http://kamaentai.org/media>

▽最新情報はこちら

<https://www.kamaentai.org/>

<https://www.facebook.com/kamaentai/>

https://www.youtube.com/channel/UCsqyETY3gVC_kC6WbrHgpcg